



新年のご挨拶

理事長 武田 禮二

新年明けましておめでとうございます。
皆様方には輝かしい新年を迎えられた事と思いま
す。

昨年は、4月の熊本震災では多くの方々が犠牲にな
られました。更に、10月にも鳥取で震度6弱の地震で
大きな被害に見舞われました。また、地球温暖化の
影響により多くの台風が東北・北海道を直撃した事
で甚大な被害を受けました。各地の一日も早い復
旧・復興をお祈りいたします。

2006年に薬学教育6年制がスタートして、昨年は10
年の節目を経過しましたが、4年制を併設している大
学の中には6年制一本に踏み出す大学も出てきたよう
です。

医療現場では6年制薬学教育を通して高度な専門性
を身に付けると共に実務実習で臨床経験を積んだ即
戦力としての薬剤師が必要とされています。今年で6
年制卒業生も第6期生を送り出す事になり、その医療

現場での評価は良いように聞こえてきます。昨年4月
から“かかりつけ薬剤師・かかりつけ薬局”制度が
導入されました。今後、薬剤師は医療現場で患者様
の薬の服用・管理のみならず健康全般の相談を直接
受ける機会が増え、社会性、社交性、人間性やコ
ミュニケーション能力等が更に求められます。今
後、信頼される医療人になるためにも、まだまだ学
んでいただくべき課題があると感じています。大学
で薬剤師としての知識・技能等を十分に学び、備え
ることができず、実際に医療現場でそれらを行
動に移すことは難しい事です。日ごろから意識して
課題に取り組む努力をしてください。それには日頃
の行動、クラブ活動や地域交流等を通して倫理観、
社会性、人間性やコミュニケーション能力を身に付
けて、京薬出身者は他者と違うと評価される医療人
を目指してください。

大学を取り巻く環境も大きく変わり始めました。
2018年には18歳人口が急激に減少する2018年度問題

CONTENTS

■ ご挨拶

新年のご挨拶 理事長 武田 禮二	1
年頭にあたって 学長 後藤 直正	2
新任のご挨拶	3

■ コラム

卒業生からのメッセージ	15
学生相談室だより	20
私の薦める、私の一冊	21
水中でぶつぶつ	23

■ イベント

2016年度 防災（避難）訓練を実施しました	3
異文化体験	9
第22回京都薬科大学公開講座開催	12
2016年10月にオープンキャンパスを開催しました	12
第3回卒業生・在学生交流会を開催しました	13
夏の科学実験会を開催しました	13
2016年度京薬祭を終えて	14

■ 特集

第1回日本薬学教育学会大会が開催されました	4
-----------------------	---

■ 報告

大学院トピックス	16
2017年度推薦入学試験結果	16
受賞	22
京都薬科大学奨学金寄付金芳名録	24

■ お知らせ

Library News	8
第102回薬剤師国家試験	15
2016年度後期試験等日程	17
教育後援会からのお知らせ	18
2017年度卒業教育講座概要	19
クラブだより	22
京薬会だより	23
お知らせ	24

を控えて、既に定員充足を大きく割り込んでいる大学も出始めています。今後、大学の統廃合を含め、各大学の生き残りを掛けた対応が求められます。本学ではファーマシスト・サイエンティストの育成を掲げ、ナンバーワンの薬学教育を目指して中期計画を策定し、推進しています。第2期中期計画は本年3月末で終了し、その進捗状況も先送り案件を除けばほぼ100%の達成率になる見込みです。現在、第3期中期計画を策定しています。2018年度問題をクリ

アーし、第3期中期計画を着実に推進させることで、130年以上の伝統を絶やすことなく今後も存続し続ける大学づくりを学生・職員全員が力を合わせて目指しましょう。

本年も皆様方のご協力の下、各種課題を進めてまいりますのでご協力をお願いします。

本年も皆様方のご活躍とご多幸を祈念いたしまして、新年の挨拶といたします。



年頭にあたって

学長 後藤 直正

明けましておめでとうございます。昨年は本学の運営、教育、研究にご理解いただき感謝申し上げます。本学の発展、学生の育成のために更なるご協力のほどお願い申し上げます。

新年と言っても、ひとそれぞれ思いは様々なことでしょう。6年次の皆さんにとっては来るべき第102回薬剤師国家試験のために奮闘努力のストレスの強い正月のことと思います。到達せねばならない目標に向かうことは一種の抑圧状態かもしれません。しかし、この時を越えれば大きな思い出になることでしょう。卒業され、10年、20年が経過し、開かれた同窓会で「あのとき大変だったね」、「普段と違って必死な顔やったよ」、「四六時中試験のことしか考えてなかった」とか、なかには「そんなことなかった余裕だった」とかというような思い出が出るかもしれません。いずれにしても、いま、このときに全力を挙げることで、これが皆さんの将来の糧となります。残りの期間、体調に留意され、努力を尽くされることを祈っております。1年次から5年次の皆さんは、新年というなにかリセットされたような節目に過去を振り返ることをお勧めします。「人は失敗からしか学べない」という言葉もあります。単に失敗するだけではなく、その因を探ることがあれば、失敗さえもポジティブに活かします。また、それが思い出ともなります。昨年を振り返り、新年に活かすことを期待しております。

さて、2006年に始まった薬学6年制もはや11年を経過しようとしております。未知の6年制に踏み出した当初、すべてのことが未知のことで、当時、教務部長を務める身には、共用試験（CBT、OSCE）、長期実務実習、6年制薬剤師国家試験と何から何まで新しい制度への対応の連続でした。今から思えば、懐かしくもあります。しかし、大きな課題は6年制教育として、なにをなすべきかという目標設定には至っていないということで、不安な6年制の幕開けでした。し

かし、2010年に就任された乾前学長が、本学の教育方針として、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスのとれた、すなわち“ファーマシスト・サイエンティスト”の育成を掲げられ、全職員が一丸となって、その実現に向かってきました。教務部長、副学長として、乾前学長と6年制教育について議論する中で、6年制教育の真の価値、大きな成果が見えるには30年が必要ということを感じてきました。過去を振り返ると、更地を耕した10年であったともいえましょう。そうした第1期が終わり、つぎの「第2期の10年になにを成すべきか」という命題が掲げられます。多数の新しい方策を打ち出した第1期と同じように、さらに新しい方策を打ち出すべきでしょうか？それよりも第1期で行ってきた種々の方策の真意を検証し、修正すべきところは修正し、さらに整理・統合化し、実行することが第2期の任務であり、その成功が責務であると考えております。いっぽう、教育、研究も含めた本学の運営は5年ごとに設定される中期計画（中計）に従って行われてきました。第2期中計が昨年終了し、本年4月より第3期を迎えます。第3期中計は、本学の6年制の第2期の完成と第3期につながるものでなくてはなりません。第3期中計に関しては、現在検討中ではありますが、昨年夏に、全職員が創立130周年記念館に集まり、第3期中計策定のためのWorld Caféで得られました皆さまからのご意見が活かされた第3期中計を策定する方針であります。

本学には、他学はどうであれ、6年制薬学の推進によって有為な卒業生を輩出するという責務があります。第3期中計をもとに6年制第2期の事業遂行に全力であたりたく思っております。それには全職員の皆さまのご協力なくしては成し遂げられるものではありません。なにとぞ、全面的なお力添えをお願い申し上げます。年頭のあいさつと致します。

新任のご挨拶



生命薬科学系
微生物・感染制御学分野

まさたか
教授 小田 真隆

2016年10月1日付で微生物・感染制御学分野教授を拝命いたしました。私は長崎県出身で、徳島文理大学薬学部を卒業後、同大学の櫻井純教授（微生物学教室）のご指導の下、博士課程を修了いたしました。学位取得後、同大学薬学部の助教および講師として7年間勤務し、その後、新潟大学大学院医歯学総

合研究科・微生物感染症学分野（寺尾豊教授）の准教授として教育・研究・運営に約4年間携わりました。

薬学、歯学、医学領域で教育および研究を行ってきた経験を生かし、本学、さらに薬学領域全体の発展のために精一杯尽力して参る所存でございます。特に、学生の「判断力」と「コミュニケーション力」を涵養するため、教育および研究環境を整備したいと考えております。また、分野横断型の研究を行い、新たな感染症研究を展開しようとプロジェクトをデザインしておりますので、皆様のご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



事務局
企画・広報課兼
国際交流推進室

りょうじ
事務員 太田 亮史

2016年10月1日付で入職し、事務局企画・広報課（国際交流推進室兼務）に配属されました太田と申します。

私は、兵庫県の出身で中学から大学まで京都へ通っておりましたが、就職により関西を一度離れ、愛知県にある中部国際空港を運営する会社で仕事をしておりました。この度ご縁があり、ゆかりのある

関西、京都に戻ってくることができ、非常に嬉しく思っております。前職では新卒採用担当をしておりましたので、大学業界との繋がりには“皆無”といったわけではないのですが、全く知識が無いといっても過言ではない状態でございますので、皆様からご指導・ご鞭撻を賜れば幸いです。また、旅行・飛行機が趣味ですので、もし旅行に行かれる際はご相談頂ければ何らかのお手伝いをさせていただけるのではないかな、と勝手に考えております。

持ち前の声の大きさを活かし、日々精進して参る所存でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

2016年度 防災（避難）訓練を実施しました

Event

本年の防災対策委員会（委員長 後藤学長）で昨年度に引き続き授業中の災害を想定した訓練を実施することが決定され、2016年度防災訓練が9月27日に本校地で実施されました。

1,200名を超える訓練のため山科消防署の協力を得て、昨年浮かび上がった課題を考慮しつつ、新たに放水訓練も取り入れ、充実した防災訓練となりました。



施設課



訓練総括

本年は1,200名を超える避難訓練となり、最大の課題であった「全員が安全に避難する」ことができました。本年4月には熊本で大きな震災があり、大学関係者にも犠牲者が出ています。防災訓練に参加することで、普段から防災意識の向上に努めてください。

また今後の訓練の参考としますので、防災訓練での意見を「施設課」までお寄せください。

第1回日本薬学教育学会大会が開催されました

教育とは、次世代を担う人材の養成だといえるでしょう。私が学部生、大学院生であった1970年代は、まだまだ昔ながらの大学教育が続けられていたように思います。私は文学部ですが、薬学部・薬科大学でも同じような状況だったのではないのでしょうか。その後、80年代、90年代と、日本でも世界でも、社会の変化とともに教育をめぐる環境も大きく変わり、21世紀に入ってからにはさらに加速化しています。こうした社会の変化を背景として教育のあり方も変わっていかざるをえません。個々の教員の努力や工夫だけに頼っている、なかなか変化に追いつきません。集団の知恵というものが大切になってきます。

2006年に薬学教育の6年制が始まり、10年目となった昨年8月、本学において日本薬学教育学会の第1回大会が開催されました。すでに、2015年11月6日・7日に摂南大学薬学部および本学において「薬学教育のスタートアップ」と題し、「日本薬学教育学会」設立準備シンポジウムが開催されていました。こうしたステップを経て、本学前学長乾賢一先生が大会長となって第1回大会が開催されたのです。本学は、乾前学長のもとで、6年制教育の目的として、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスのとれた人材、すなわちPharmacist-Scientist（ファーマシスト・サイエンティスト）の育成を目指すこととされました。第1回大会のテーマが、「薬学教育の原点～Science, Art, Humanity～」とされたことも偶然ではありません。また、「日本薬学教育学会の設立にあたって」は、次のように記しています。「20世紀初頭の偉大な医学者ウィリアム・オスラー卿は、医学・医師に必要なこととして、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）を掲げていますが、薬学・薬剤師においても、基本的にはこの三要素が重要であると考えます。今回の薬学教育改革では、薬の専門職としての十分な知識、技能、態度を身につけた質の高い薬剤師の養成が求められています。その原点は、Science、Art、Humanityをバランスよく統合した教育にあると言えましょう。」今後の薬学教育がこうした理念を具現していくことを強く期待するとともに、本学においても、私たちはその実践に努めたいと思います。

KPU_{NEWS}編集委員長 鈴木 栄樹

Feature article.

臨床薬学分野 教授 西口 工司

2016年8月27日（土）～28日（日）、第1回日本薬学教育学会大会（大会長：乾 賢一名誉教授）が京都薬科大学・躬行館および創立130周年記念館において、「薬学教育の原点～Science, Art, Humanity～」をテーマとして開催されました。大学のみならず医療現場や製薬企業など600名を超える参加があり、薬学人の研鑽の場として薬学教育のプラットフォームとなるべく本学会に対する大きな期待が感じられました。

27日午前には設立総会が開催され、約2年の準備期間を経て日本薬学教育学会が正式に発足し、代表世話人として乾 賢一名誉教授の就任が承認されまし

た。27日午後からは、文部科学省および厚生労働省からの来賓による祝辞で第1回大会が開会されました。学会設立の意義を報告した大会長講演のほか、医学教育学会からの期待を込めた特別講演、薬学教育の今後の課題について考えるシンポジウム、さらにはワークショップおよび一般講演が行われ、活発な議論が展開されました。なお、第2回大会（平成29年9月2日、3日）は、名古屋市立大学にて開催される予定です。以下、設立総会ならびに第1回大会の概要等について報告させていただきます。

（日本薬学教育学会ホームページ：

<http://www.jsphe.jp/>）



参加者で超満員の大会メイン会場
（躬行館T31講義室）



後藤直正学長による乾杯の御発声
懇親会会場（躬行館食堂）

1. 日本薬学教育学会 設立総会 概要
8月27日（土）10:00～12:00（A会場：躬行館3階T31）

1) 学会設立の会

- ・ 開会の辞：市川 厚 先生（武庫川女子大学薬学部）
- ・ 議長選任
- ・ 設立趣意書：中村 明弘 先生（昭和大学薬学部）
- ・ 会則および細則について
- ・ 学会設立宣言：市川 厚 先生（武庫川女子大学薬学部）



市川 厚 先生



学会設立趣意書の朗読

2) 第1回総会

（第1部）

- ・ 開会宣言：中村 明弘 先生（昭和大学薬学部）
- ・ 登録会員数、総会出席者数の報告
- ・ 議長選任
- ・ 議事録署名人の指名
- ・ 世話人の選出



中村 明弘 先生



乾 賢一 先生



平嶋 尚英 先生

<休憩> （第1回世話人会開催）

（第2部）

- ・ 代表世話人の選出報告と挨拶：乾 賢一 先生（京都薬科大学）
- ・ 監事の選出
- ・ 2016年度事業計画について
- ・ 2016年度収支予算について
- ・ 第2回大会長について
- ・ 第2回大会長の挨拶：平嶋 尚英 先生（名古屋市立大学薬学部）
- ・ 閉会の辞

第3種郵便物認可

薬学教育の未来議論

教育に関わる大教員や薬剤師らで作る「日本薬学教育学会」が27日、設立された。薬分野での教育学会は初めて。代表世話人には、乾賢一・京都薬科大名誉教授が就任し、第1回大会が京都市山科区の同大学で開かれた。

薬剤師を養成する学部が6年制となつて今年で10年。良質な薬学教育の必要性の高まりを受け、大学入学から卒業後にわたり、優れた薬剤師や研究者を育てる教育を議論する。

乾名誉教授は設立を記念した講演で、京都大医学部付属病院で薬剤師を募集した経験の振り返りながら、適切な薬剤処方などの臨床現場における薬剤師の役割は増しているを指摘。その上で「臨床薬に求められるのは、臨床学と技術・人間性」と強調し、多角的な視点から薬学教育について考える重要性を訴えた。

その後、薬学教育の現状に関するシンポジウムを開催。神戸市立医療センター

中央市民病院の福田卓薬師部長は、薬剤師の資格取得後に臨床現場で研する同病院のプログラムを紹介。卒業後も学び続ける必要性を強調し、「研修医制度においても、研修医制度のよきに公的助成を受けられる仕組みを目指したい」と話した。このほかにも各研究者から、薬師国家試験の制度改革や大学・大学院での教育の分析に関する報告があった。（広瀬一隆）

京都新聞 2016年8月28日



設立総会（躬行館T31講義室）

2. 大会 8月27日（土）13:00～
8月28日（日）9:00～

■ 開会式

大会長挨拶 乾 賢一 先生（京都薬科大学）



乾 賢一 先生



文部科学省
佐々木昌弘 企画官



厚生労働省
紀平 哲也 室長

来賓祝辞

文部科学省 佐々木 昌弘 氏（高等教育局医学教育課企画官）

厚生労働省 紀平 哲也 氏（医薬・生活衛生局総務課医薬情報室長）

- 大会長講演 「薬学教育の原点 -Science, Art, Humanity-」
乾 賢一 先生 (京都薬科大学)
- 特別講演1 「医療系教育学会の使命：医学教育から薬学教育への期待」
鈴木 康之 先生 (岐阜大学医学教育開発研究センター)
- 特別講演2 「医療人教育におけるプロフェッショナリズムー何をプロフェスするのカー」
中島 宏昭 先生 (昭和大学医学部)



乾 賢一 先生



鈴木 康之 先生



中島 宏昭 先生

- シンポジウム1 『薬学教育の充実・発展に向けた取組』
 オーガナイザー：中村 明弘 先生 (昭和大学薬学部)
 入江 徹美 先生 (熊本大学大学院生命科学研究部)
- 「6年制薬学教育の現状と課題ー第三者評価の結果よりー」
平田 収正 先生 (大阪大学大学院薬学研究科)
- 「薬剤師国家試験制度の改善に向けた制度の検討」
赤池 昭紀 先生 (名古屋大学大学院創薬科学研究科)
- 「大学院博士課程の現状と課題」
賀川 義之 先生 (静岡県立大学薬学部)
- 「薬剤師レジデント研修プログラムの現状と課題」
橋田 亨 先生 (神戸市立医療センター中央市民病院)
- 「健康サポートに取り組む薬剤師の研修について」
長谷川洋一 先生 (名城大学薬学部)



平田 収正 先生



赤池 昭紀 先生



賀川 義之 先生



橋田 亨 先生



長谷川洋一 先生

- シンポジウム2 『アウトカムを意識した薬学実務教育のこれから』
 オーガナイザー：木内 祐二 先生 (昭和大学医学部・薬学部)
 平田 収正 先生 (大阪大学大学院薬学研究科)
- 「医学部の臨床教育と臨床実習後OSCE」
北村 聖 先生 (東京大学大学院医学系研究科)
- 「アウトカムを実現する実務実習の取り組み」
木内 祐二 先生 (昭和大学医学部・薬学部)
- 「新たな実務実習指導薬剤師の育成ー学習成果基盤型教育に基づいた実務実習とはー」
平田 収正 先生 (大阪大学大学院薬学研究科)
- 「アウトカムを意識した今後の実務実習と薬学共用試験OSCE」
橋詰 勉 先生 (京都薬科大学)



北村 聖 先生



木内 祐二 先生



平田 収正 先生



橋詰 勉 先生

■ シンポジウム3 『薬学教育研究、事始め』

オーガナイザー：有田 悦子 先生（北里大学薬学部）
亀井美和子 先生（日本大学薬学部）

「教育研究の意義と課題－根拠に基づく薬学教育を目指して－」

藤崎 和彦 先生（岐阜大学医学教育開発研究センター）

「薬学教育研究、事始め」にあたり－薬学教育研究にどう関わるか－

亀井美和子 先生（日本大学薬学部）

「多変量解析を用いた学修成果の検討－早期臨床体験におけるアンケートの解析－」

串畑 太郎 先生（摂南大学薬学部）

「薬学教育の中での質的研究－学生の気づきを促す教育の構築のための研究とは－」

半谷真七子 先生（名城大学薬学部）



藤崎 和彦 先生



亀井美和子 先生



串畑 太郎 先生



半谷真七子 先生

■ シンポジウム4 『教育学・学習科学の現状と展望』

オーガナイザー：長谷川洋一 先生（名城大学薬学部）
大津 史子 先生（名城大学薬学部）

「アクティブラーニングの実践的課題」

中井 俊樹 先生（愛媛大学教育・学生支援機構）

「問題解決能力育成を目指したPBLカリキュラム「薬物治療学」の実践と学習効果」

大津 史子 先生（名城大学薬学部）

「学習成果の直接評価と教育の質保証－問題発見解決型歯科医療人の育成を目指して－」

小野 和宏 先生（新潟大学大学院医歯学総合研究科）

「専門家としての資質・能力を育む薬学教育の授業のすがた－学習科学の知見から－」

益川 弘如 先生（静岡大学大学院教育学研究科）



中井 俊樹 先生



大津 史子 先生



小野 和宏 先生



益川 弘如 先生

■ プレコンgressワークショップ（8月26日）

『症候からの臨床判断』

木内 祐二 先生（昭和大学医学部・薬学部）

■ ワークショップ1

『ジグソー法でジグソー法を学ぶ』

益川 弘如 先生（静岡大学大学院教育学研究科）



開催風景（躬行館Q32講義室）



開催風景（躬行館Q31講義室）

■ ワークショップ2

『World Cafe体験—薬学教育のコト、
語りませんか?—』
石川さと子 先生 (慶應義塾大学薬学部)



開催風景 (躬行館Q32講義室)

■ 一般演題 (ポスター発表) 110題

■ 大会特別企画 (ポスター発表) 24題



ポスター会場 (創立130周年記念館)

最後に、本会開催にあたり、本学の法人役員、教育職員および事務職員の皆様に多大なるご指導とご援助をいただきました。心から感謝するとともに御礼申し上げます。

Library News

図書館

■2016年度 教育後援会寄贈図書

今年も教育後援会から図書を寄贈していただきました。右記のほか、小説やエッセイ、旅行書など全188点が入りました。どうぞご利用ください。



タイトル / 編著者名
コンビニ人間 / 村田沙耶香
羊と鋼の森 / 宮下奈都
希望ヶ丘の人びと / 重松清
未到: 奇跡の一年 / 岡崎慎司
USJを劇的に変えた、たった1つの考え方 / 森岡毅
京都の時間: 暮らしを彩る愉しみ / 千田愛子
みんなが知らない超優良企業 / 田宮寛之
なぜ、世界から戦争がなくなるのか? / 池上彰
人生を面白くする本物の教養 / 出口治明
大学生生活を極める55のヒント / 板野博行
イタリア: トラベルデイズ

ほか、全188点

開館日程

2017年 1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2017年 2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

2017年 3月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

□ 8:30-21:00 □ 8:30-17:00 □ 10:00-17:00 □ 休館 □ 休館=館内整備

■2016年度フライブルク大学主催夏大学参加者を引率して



欧州各地で頻発するテロ事件のため、その開催が心配されていたフライブルク大学主催の夏大学（2016年度より夏季語学講座から改称）が予定通り実施された。本学独自の新短期留学制度が始まって2回目の今回もチャレンジ精神あふれる学生諸君がフライブルクへと向かった。2016年度夏大学は開始が8月3日、終了が8月26日であったが、本学の参加者は前期試験の日程の都合で、2日遅れの5日からのスタートとなった。到着日の8月4日から1週間ほどは朝方には吐く息が白くなるほど肌寒い日が続いたが、ほぼ連日抜けるような青空が広がるなど実に天気にも恵まれた今回のフライブルクの夏大学であった。

夏大学期間中は参加学生に付き添ってほしいという武田理事長、乾前学長の要請を受け、今回は3人の職員が渡航から帰国まで交代でフライブルクに滞在した。凶悪なテロ行為のため早々と派遣を中止する古参の参加校もあり、今回の夏大学の参加者数は例年よりかなり減少したらしいが、隣国での凶行にもかかわらず、大学関係者もフライブルク市民も特に気に留める様子もなく、極めて平穏な日々であった。

今回の夏大学は広報が悪かったのかあるいは学生諸君の関心が薄れたのか11名という過去最低の人数になったのが気になるところである。今まで参加者は三々五々フライブルク入りを果たしていたが、今回は遅れて参加するため、11名の学生諸君は往復とも初めて団体行動となった。

さて肝心の夏大学だが午前中は教室内でのドイツ語の学習、午後は習いたてのドイツ語を応用するべく教室の外に出るといった流れになっている。そのために数多くのレクリエーションプログラムが用意されている。とにかく日が長いので、個人的に近郊の町や村に出かけていくもの、中には国境を越えてフランスのストラスブールの大聖堂の見学に行ったり、あるいは香川真司選手の試合を観戦にドルトムントまで遠征するものなど、各自思い思いのドイツ滞在を楽しんだ。

このようにドイツ滞在未経験の参加者でも楽しく安心して過ごすことができるのも、有能かつ助力を惜しまないスタッフが、曜日、昼夜を問わず陰からサポートする体制がとられているおかげだ。予期せず病気をしたり、怪我をしても海外旅行保険に加入（必須条件）しておけば、病院の紹介から手続きなど運営事務局のスタッフや現地協力者によるサポートがある。

フライブルクで格安な滞在を可能とするため新しく導入された短期留学制度は夏大学での受講料と学生寮の家賃（1000ユーロ、2016年実績）を大学が負担するという実に太っ腹な制度である。本学の設ける一定の基準を満たせば誰でもドイツでの短期留学が可能だ。本学の定員は20名（2016年実績）である。

それでは2016年8月に約1月間ドイツで様々な異文化体験をした参加者の代表にその体験を報告してもらおう。この体験談を読んで、ドイツ短期留学に興味を覚えた諸君、ドイツという未知の国で能力や度胸を試そうと考える諸君には是非ともこの夏にチャレンジを願いたい。

フライブルク大学短期留学の詳細は愛学館4Fの桑形研究室まで問い合わせてください。現1~2年次生諸君のノックを待っています。



医学部付属病院院内薬局の見学を終えて

ドイツ語担当准教授
日本フライブルク・アルムニ会会員
ひろし
桑形 広司

■進路支援課 太田 寛之

事務職員がフライブルクに派遣されるのは今年で2回目となります。桑形准教授と昨年も引率した国際交流推進室の北田事務員と私の3名が交代で、学生の1ヶ月間の留学をサポートしてきました。

フライブルク大学は留学生のサポート体制が整っていることから、私は特に現地サポートスタッフとの信頼関係の構築に注力しました。職員2名から引継ぎを受け、帰国したあとの10日間の滞在中、現地スタッフと4回ほど顔を合わせ、学内の様子や学生の取り組み状況などを伺いました。また、同大学は英語

のプログラムも開講していることから、初心者クラスの授業を見学し、日本の大学から参加している学生に話を聞くなど、次年度以降に本学の留学制度で活かせる要素について情報収集をおこないました。

一方、本学の学生は、午前中はドイツ語の授業を受け、午後は各自で計画したアクティビティに取り組むなど、語学だけでなく充実した経験も得たようです。同大学薬学部の研究室を訪問する学生、またサッカーのブンデスリーガを観戦しに行く学生などもおり、それぞれが目的を持って計画・行動してい



サポートスタッフの打ち上げの様子

りえ
■ 3年次生 佐野 里衣

この夏、1ヶ月間フライブルク大学に留学させていただきました。ドイツ語や英語の語学力向上だけでなく、これまでの自分の生活を振り返り、常に自分で考え行動できるようにすること、自分の考えを言葉にして言えるようにすること、積極的にコミュニケーションをとること等、自分に足りないものを実感し、そして今後どうしていくべきなのか見つめ直す良い機会となりました。また初めて自分の育った環境や文化から離れ、ヨーロッパの文化に触れることで、刺激を受け感動すると同時に日本の良さを改めて感じることができました。

この1ヶ月間、駆け抜けるように過ぎてしまいましたが、振り返ってみると毎日が充実していましたし、共に留学し頑張ったかけがえのない仲間を得ることができました。今回得られたことすべてが今後

ました。

さて、ドイツ南西部、フランスとスイスの国境沿いに位置するフライブルクは、学生の街、観光・環境都市の2つの側面があります。みなさんも多くの国々から人が集まるこの美しい都市に注目していただき、次年度の留学先として考えていただければと思います。

帰国日には学生から「もっと滞在したい」という声もあがっており、皆にとって有意義な時間であったと思います。今回の経験で得たことをこれからの学生生活に活かし、さらに成長することを期待しています。

の生活にプラスになると感じています。思い切って参加して良かったと心から思うことができました。

このような機会を与えてくださり、安全に過ごせるよう配慮してくださった本学関係者の皆様から感謝いたします。ありがとうございました。



フライブルクの街並みを一望できるシャウインスラントで

まさお
■ 2年次生 板原 多勇

私はこの夏、ドイツのフライブルク大学に、約1ヶ月の短期留学をしました。留学の大きな目的は、ドイツ語学習と薬学部のラボを見学することでした。ここではラボについて、話を進めたいと思います。



フライブルク大学の薬学部研究棟の一つ

まず、ラボがフライブルクの町中に散らばって建っていることに驚きました。実際に有機化学と酵

素のラボを見学させてもらったのですが、見たこともない大きさのカラム（重かったです）や遠心機がありました。また測定機器の量が、ラボの人数に対して多く、広々としたラボであったので、落ち着いた研究に打ち込める環境だなと思いました。幸いなことに、有機化学の教授と話をする機会にも恵まれ、こんな自分の考えをしっかりと聞いてくれ、意見ももらえました。また、話の中で研究者が興味を持つ内容はどこでも同じ（今はEpigenetic制御）であることもわかり、研究は世界中の研究者との競争であることを実感させられました。そして驚いたことに、その教授は、来週からバカンスに行くのを、楽しみにしていました。

ところで、現地の学生と話をしてみると、自分の興味をもつことや目標を臆することなく語ってくれました。やはり何か目標を持ち、それに向けて努力することが大切なのではないかと感じました。最後に、留学を支えてくださった方々に感謝します。

■ 2年次生 福田 剛大

私の留学の一番大きな目的は、異国で生活すること自体だったので、あちこち出かけていたわけではありません。他の人と比べても、訪れた場所は少ないはずです。

しかしそうしていても、感動させられるものは沢山ありました。レンガ造りの大聖堂、ステンドグラスやパステルカラーの家々、一面のブドウ畑やトウモロコシ畑。何もかもが目新しく、心の底から感嘆するばかりでした。

平日の午後からは自由参加の授業にも出席しました。フランス、ギリシャ、台湾、ジンバブエなどなど、あちこちの国の人がいる中、日本人は私だけで、もちろん会話は英語でした。自分の表現力不足に打ちのめされる毎日でしたが、授業内容以外でも多くのことを学べる、本当にいい時間でした。

そのような全くの非日常を体験しているとき、「日本文化、日本民族とは何か」という問いが浮か



フライブルクの大聖堂



寮の中国人と

びました。私は確かに日本語を使い、日本文化についてのある程度の知識はあります。しかし、私の中に私を日本人たらしめる何かがあるのか。今でもそれは見つかっていません。こうしたことを考えられたことが、私にとっては留学の一番の成果です。

数多くの発見や出会いがあったあの町に、いつかまた訪れることができると、心から思います。

■ 2年次生 藤井 喬子

私は、ドイツ語を学ぶことはもちろんですが、海外に行くことで自分の経験の幅を広げたいと思い、今回のドイツ留学に参加しました。



朝市の店先で売られていた野菜

ドイツでは、フライブルク大学の寮の一室を借り、そこから毎日大学に行っていました。初めての海外、初めての寮生活に初めはとても緊張しました。授業は、ドイツ語でしたがジェスチャーや絵を使って理解していくうちに語彙が増えていき、会話も少しできるようになりました。

その他授業では街に出てインタビューをしたり、

朝市に出かけたりもしました。午後からのアクティビティでは、美術館巡りや「ムンデンホーフ（動物自然公園）」に連れて行っていただき、芸術や自然に触れることができよかったです。そのほか、オルガンコンサートやジャズを聞きに行きました。とても迫力がありました。

寮の方たちとは、主に英語を使ってコミュニケーションをとっていました。出身国も文化も違う中、自分の拙い英語で相互理解するのは難しいところもありましたが、少しずつ打ち解けていくことができ楽しかったです。ドイツに留学して、言語を学ぶだけではなく、文化に触れることもできました。今回の経験をこれからの大学生活のモチベーションアップにつなげたいと思います。



ある喫茶店からの風景



第22回 京都薬科大学 公開講座 開催

Event

生涯教育センター

2016年10月22日（土）、本学躬行館T31講義室及び薬用植物園御陵園において、「第22回 京都薬科大学 公開講座」を開催いたしました。今年には山科区政40周年記念につき京都市山科区役所と共同主催いたしました。はじめに山科副区長の石田忠彦氏、続いて後藤直正学長から開会の挨拶がありました。

前半の講演1は株式会社ロマンライフ マールブランシュ事業部製造部部長の田中滋之氏による「働く人と共に歩む、安全・安心な職場づくり」、講演2は本学の後藤直正学長による「食中毒の予防はちょっとした知識から」の2講演が行われました。2講演終了後には2名の演者との質疑応答タイムが設けられ会場は賑わいました。参加者からのアンケート結果では、「今日から手洗いの方法を実践したいと思います」「今まで知らなかったウイルスの事が分かった。ウイルスの怖さが分かった。おもしろかった」等の声がありました。

後半は、薬用植物園御陵園での見学を実施しました。今年3回目という事もあり、リピーター、口コミ、友達からの誘いで参加という方が多く見受けられました。本学教員と本学大学院生による解説タイムは今年も大好評でした。アンケート感想では、「丁寧に解説していただけてとても楽しかったです。また企画してください」「大学にこのような施設があるのは知らなかった。知れてよかった」等の

嬉しい感想をいただきました。今年も楽しく非常に有意義な見学となりました。

本年も無事開催終了できました事を心より御礼申し上げます。



株式会社ロマンライフ
マールブランシュ事業部
製造部部長 田中 滋之氏



後藤 直正 学長



薬用植物園御陵園見学

2016年10月にオープンキャンパスを開催しました

Event

入試課

2016年10月30日（日）に秋のオープンキャンパスを開催しました。秋晴れの天候のなか、447名（前年比115.2%）の参加者がありました。会場を創立130周年記念館とし「学長メッセージ」、「大学紹介（入試広報委員長）」、「在学生の話」、「卒業生の話」を行い、「見学施設の概要説明」の後、「施設見学」、「相談会」を実施しました。

「在学生の話」では、6年次生の松本卓也さんに本学を志望した理由や分野での研究活動を通じて成長できたことなどご自身の体験を通じた話がありました。

「卒業生の話」では、大阪医科大学附属病院 薬剤部に勤務されている家原由貴様をお招きして、本学の魅力や本学を選んだ理由、本学での経験が今の仕事に活かされていること、病院薬剤師としての仕事などをわかりやすくお話していただきました。「施設見学」では、臨床薬学教育研究センター、躬行館にある6分野及び図書館の協力を得て見学を行いました。見学誘導は学生広報スタッフが担当し、参加者と本学在学生が交流できる場にもなりました。「相談会」は、本学の職

員と在学生が相談員となり、105名（前年比86.8%）の相談者がありました。相談内容は、入学試験や進路、奨学金、学生生活などで、相談会参加者のとても熱心に質問、相談される姿が印象的でした。

今後も参加者の方々に本学の教育・研究環境を知っていただくため、オープンキャンパスをより一層充実したものにして参ります。

【参加者内訳】

高校1年生：62名、高校2年生：81名、
高校3年生：41名、既卒生：6名、付添者：257名



施設見学の様子

第3回 卒業生・在学生交流会を開催しました

Event

進路支援課

2016年7月30日（土）に「卒業生・在学生交流会」を開催しました。「卒業生・在学生交流会」は、卒業生には本学との絆を強めることを、在学生にはキャリア支援の充実を目的としています。

第3回となる本年は、2014年3月卒業生（6年制3期生）に参加していただきました。

当日は晴天に恵まれ、卒業生17名、5年次生64名、教育職員21名と多数ご出席いただき、昨年以上の盛り上がりで会を終えることができました。

第1部の座談会では、職種毎に分かれた卒業生（2～4名程度）が各々10名程のグループに分かれた在學生に、現在の進路を選んだ理由や業務内容などについて、ざっくばらんにお話いただきました。第2部の茶話会からは職員の方々にもご参加いただき、卒業生・在學生と共にお互いの絆を深めることができました。

他方、交流会の実施に先立ち、卒業生（6年制3期生）には、本学のホームページ等を活用した「卒業生アンケート」に協力していただきました。卒業生325名中180名（回答率：55.4%）から回答を得ることがで

きました。大学をより良くするためのご意見・ご提案も多くいただいております、今後の本学の取り組みにつなげていきたいと考えています。

最後になりましたが、「卒業生・在学生交流会」ならびに「卒業生アンケート」にご協力を賜りました卒業生、在學生、職員の皆様に心よりお礼申し上げます。



座談会の様子

夏の科学実験会を開催しました

Event

ボランティアサークルFriwilly 4年次生 高橋 葵・4年次生 北川 和

8月22日、23日に、去年に引き続き、山科近隣の小学生を招待し、第2回目の科学実験会を開催しました。私たちFriwillyは「ボランティアに対し積極的に考える」ことをテーマに、海外での活動や児童館での科学実験会など様々な活動に取り組んでいます。

実験会は、子どもたちが「どうしてそうなるの?」という疑問を持って、科学に対して面白さや興味を持ってくれたらという思いで行っています。また、子どもたちを大学に招待することで、大学の雰囲気を感じられるのも子どもたちにとってよい機会なのではないかと思っています。



実験に興味津々な子供たち

今回行った科学実験は、牛乳の表面張力を使った実験、無水エタノールを用いてオレンジジュースからDNAを取り出す実験、ハーブティーであるマローブルーを使って身近な液体の性質の実験、重曹とクエン酸の反応により二酸化炭素を発生させ、風船を膨らま

せる実験の4種類です。最後に、体験コーナーでは、薬を水で飲む大切さを知ってもらうために、アルギン酸ナトリウムと塩化カルシウムを使って子どもたちに人工イクラを作ってもらいました。実験会全体では、子どもたちが楽しめるようにクイズや劇を入れて工夫しました。原理は身の回りのものと結び付けて説明し、生活の中で今回の実験のことを少しでも思い出して、自分で考えたり納得してもらえたらという思いで行いました。実験会終了後に協力していただいたアンケートより、疑問が解決したという意見や、スノードーム作りが楽しかった、次回も参加したいという嬉しい意見をいただきました。

今後も薬学生ならではの知識や経験を活かして、積極的に活動をしていこうと考えています。最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えてくださった職員の皆様、並びにサポートして頂いた皆様、本当にありがとうございました。



実験会に参加したサークルメンバー

今年は創立130周年記念館の使用、飲酒禁止の導入など例年とは異なる学祭となりましたが、大きなトラブルもなく無事に終えることができました。京薬祭の開催にあたって、ご理解、ご協力頂きました学校関係者の皆様、学生の皆様、近隣住民の皆様、本当にありがとうございました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。



フリーマーケット会場

委員長として、この1年間で様々な経験をすることができました。「学生の皆様が理想とする学祭はどういったものなのか」「その理想像に少しでも近づけるにはどうすればいいのか」を常に考える1年間となりました。その中で、理想的な学祭を実現するため、新たに竣工した創立130周年記念館をライブ会場として使用することを学校側にお願いしました。学生課の方へ話を持ち出す度に、言われないと気付けない細かな問題を提示され、その都度、自分達の考えの甘さを感じ、何か新しい事を始める大変さを嫌と言うほど実感しました。その分、記念館で行われた奥華子さんのライブを見た時、心から感動し、自分達の頑張りが報われたように感じました。多くの壁にぶつかっても、諦めず乗り越えて本当に良かったと思いました。



こどもランド実験会場

また、この1年間でもう1つ感じたことがあります。それは「心身ともに疲れて余裕がない時に、どれだけ周りの人達に気を遣うことができるか」ということです。実行委員の仕事内容は、1・2年次生についてはステージ企画、フリーマーケット、3年次生

については学祭全体の運営に携わります。特に3年次生の負担は多く、辛い時もあります。そのため、普段なら思わないこと、考えないことが頭に過ぎってしまいます。こういった時に自分の身勝手な行動、発言をするのではなく、自分を含め全体を客観視し、いつもの自分を取り戻すことが団体内外でのトラブルを防ぐためには本当に大事なことだと思いました。「自分だけがしんどいのではない、周りも同じように頑張っているのだ」という気持ちひとつあれば、仲間を思いやることもでき、とても良い団体を作れるのだと感じました。ここまで、委員長として感じたことを述べさせてもらっていますが、私がこうやって委員長をやり通すことができたのは紛れもなく同年次生の仲間のおかげです。自分達の手本となってくださった先輩方、自分達についてくれた後輩達ももちろんですが、やはり自分の一番身近な存在でいてくれた同年次生の仲間には本当に感謝しかありません。



京薬祭実行委員メンバー

私はそもそも1年次生の頃、実行委員会を辞めようと考えていました。理由は色々あったのですが、それを止めてくれたのは同年次生でした。同年次生が本当に良い仲間であり、辛い作業も一緒にやると楽しくなるし、毎日のように作業が終わると天下一品のこってりラーメンを食べて仲を深めました。そんな楽しい仲間が私を次期委員長に選んでくれたことで、実行委員会を続けようと思うようになりました。委員長をやっている、辛い時は皆からもらった色紙を見て、元気をもらっていました。彼らには心から感謝しています。皆の期待に十分応える事ができたかわかりませんが、私はとてもこの1年間楽しかったです。そして3年間の実行委員会での生活はとても良い思い出になりました。

改めまして、お世話になった学校関係者の皆様、近隣の皆様、実行委員の皆、本当にありがとうございました。また今後とも、京薬祭および京薬祭実行委員会を温かく見守って頂きますようお願い申し上げます。



基礎薬学の重要性

益野 秀樹



2002年 学部卒業
(生化学教室)

育生会 久野病院
薬局 薬剤部長

在学中は生化学教室でセミナー生としてお世話になりました。当時は与えられた課題をこなしていくことに精一杯で（こなすことが出来ていなかったこともあります）勤勉な学生とは程遠い状況でした。そのような中、教授をはじめ、様々な立場の方にご指導いただいたことは「かけがえのない」経験となりました。自分の考え方や発想に対して、学術的な観点からコメントや評価を得られたことは講義や実習では得られない貴重な経験となりました。

院内の症例検討では皆が臨床的な観点で議論することがメインですが薬剤師としての職能を發揮しようと考えれば、他職種と同じような論点でアプローチしても、なかなか専門性を發揮することが難しいのが現状です。「薬剤師は科学者であれ」というフレーズをよく耳にしますが、病院薬剤師の立場から

これを実践するのであれば生化学や有機化学のような基礎の学問において活かした知識を持っていることが前提ではないかと感じています。臨床の現場で「薬理学が苦手である」という薬剤師は聞いたことがありませんが「有機化学は苦手だから」ということを口にする薬剤師は比較的多い印象があります。薬効分類が同一であっても臨床効果として異なる性質を持つ複数の薬剤、というのはよくあることで、構造式を見てみると官能基が一箇所異なっているのみ、ということもあります。構造式をもとに臨床効果や副作用の差を推定できれば専門職としての位置づけが明確になります。「構造式」と「臨床効果」という2点を結ぶ具体的なアプローチ方法に興味がある方は南山堂から出版されている「くすりのかたち」という書籍を手にとってもらえれば理解いただけると思います。今後も基礎薬学から逃げない心構えを持った薬剤師が増えることを希望します。

職場での現在の仕事内容ですが、電子カルテの導入プロジェクトの先頭に立ったり、院内ネットワークの構築など、薬剤師とは直接は関わらないことも行っています。必要とされていて、何らかの貢献が出来るのであれば各種プロジェクトにも参加することで病院や医療を違う側面から見る事が出来て勉強になります。今後は薬剤師の院内での地位の確立ということを中心に多方面から関与していければと考えています。

第102回薬剤師国家試験は、次のとおり実施されます。

- 試験期日** 平成29年2月25日（土）及び同月26日（日）
- 試験地** 北海道、宮城県、東京都、石川県、愛知県、大阪府、広島県、徳島県及び福岡県
- 試験科目** [必須問題試験]
物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務
- [一般問題試験]
- ・薬学理論問題試験
物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理
 - ・薬学実践問題試験
物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務
- 合格発表** 平成29年3月28日（火）午後2時

京都薬科大学大学院薬学研究科をより深く知っていただくために、大学院の教育・研究関連のイベントを報告いたします。ぜひご覧ください。

■9月8日（木）第24回「とにかく英語を口にしよう」

“アジアの薬剤部視察報告と海外学会報告” 薬学専攻博士課程4年次生松村健吾さん（臨床腫瘍学分野）
 今年の1月6日～9日にシンガポール国立がんセンターで実施された5大学連携「海外合同教育シンポジウム」と大学病院薬剤部の視察及び今年7月にイギリスマンチェスターで行われたEACR24（欧州がん学会）でのポスター発表などの報告が行われました。教育職員、大学院生、学部生など18名が参加しました。

■9月30日（金）2016年度前期学位記授与式

課程博士2名、論文博士2名の学位が授与されました。

■10月6日（木）第25回「とにかく英語を口にしよう」

「国際DDS学会に参加して」 “REPORT on INTERNATIONAL CONFERENCE ATTENDED in SEATTLE”
 薬科学専攻博士後期課程2年次生田中晶子さん（薬剤学分野）
 7月にシアトルで開催されたControlled Release Society (CRS) Conferenceでの口頭発表やカナダの薬剤師についての報告が行われました。教育職員、大学院生、学部生など18名が参加し、活発な質疑応答が行われました。

■11月7日（月）第26回「とにかく英語を口にしよう」

“Research Study at Washington State University” 薬学専攻博士課程4年次生太田智絵さん（生薬学分野）
 アメリカWashington State Universityでの留学の報告が行われました。
 教育職員、大学院生、学部生、外国人留学生など17名が参加し、活発な質疑応答が行われました。

■11月11日（金）課程によらない博士学位論文口述発表（後期）

14：00～ A31講義室



第24回 松村 健吾さん



第25回 田中 晶子さん



第26回 太田 智絵さん

2017年度推薦入学試験結果

2017年度推薦入学試験の内、指定校制推薦入学試験が2016年11月14日（月）に、一般公募制推薦入学試験は11月19日（土）に実施され、11月29日（火）に合格発表が行なわれました。

その結果は次のとおりです。

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制推薦	50名	54名	54名
一般公募制推薦	80名	306名	81名

シラバスにも一部掲載されているように、2016年度後期の試験日程は別表のとおりです。

再試験受験手続が遅れる学生が、例年見受けられます。日程等（再試験手続の詳細は後日掲示で連絡します）をよく確認しておいてください。

「再試験受験許可書・領収書」は、再試験を受験する際に必要です。手続後、再試験受験時まで紛失しないよう大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行をしますので申し出てください。

《後期試験等日程表》

年次	試験	試験期間	合格発表	受験手続日
6	薬学特別演習 本試験	1月10日(火) 1月11日(水)	1月20日(金)17:00～ 1月25日(水)24:00 Webによる公開	—
	薬学特別演習 再試験	2月6日(月) 2月7日(火)	卒業査定会[2/16(木)]後 成績通知書を配付	1/23(月)・1/24(火)
4	後期試験	1月18日(水)～ 1月20日(金)	1月30日(月)17:00～ 2月5日(日)24:00 Webによる公開	—
	後期再試験	2月7日(火)～ 2月10日(金)	2月17日(金)17:00～ 2月22日(水)24:00 Webによる公開	1/31(火)・2/1(水)
	前・後期再試験Ⅱ	2月22日(水)～ 3月1日(水)	進級査定会[3/23(木)]後 成績通知書を配付	前期科目:1/31(火)・2/1(水)* 後期科目:2/20(月)・2/21(火)
	OSCE本試験	12月17日(土) 12月18日(日)	別途掲示告知	—
	OSCE追・再試験	3月9日(木)	進級査定会[3/23(木)]後 成績通知書を配付	別途掲示告知
	CBT本試験	1月26日(木) 1月27日(金)	別途掲示告知	—
	CBT追・再試験	3月6日(月)	進級査定会[3/23(木)]後 成績通知書を配付	別途掲示告知
1～3	後期試験	1月20日(金)～ 1月30日(月)	2月13日(月)～ 〔1年次 15:00〕 〔2年次 15:30〕 〔3年次 16:00〕 2月22日(水)24:00 Webによる公開	—
	後期再試験	2月22日(水)～ 3月1日(水)	進級査定会[3/23(木)]後 成績通知書を配付	2/14(火)・2/15(水)

*4年次前期科目の再試験Ⅱと後期再試験の受験手続を同時に行なうので、該当者は注意してください。

2016年度の教育後援会総会が、10月1日（土）13時からT31講義室において開催され、204名のご父母にご参加いただきました。

はじめに、福田会長、武田理事長の挨拶があり、後藤学長から大学の近況等について説明が行われ、その後議事に移りました。

まず、2015年度決算と2016年度事業計画案・予算案について報告が行われ、2016年度予算については下記のとおり承認されました。なお、2016年度からの新規事業はなく、昨年度と同じ事業計画となっております。

引き続き、教育後援会役員の人事について審議され、2011年度から会長を務めていただいた福田様が昨年度を持って退任し、新たに謝前副会長が会長に就任

しました。副会長の後任には清水前会計、会計には落合父母幹事が新たに就任いたしました。加えて、昨年まで大学側の副会長を務めていた長澤教授が2016年4月1日付で学生部長に就任したことにより、臨床薬学分野の西口教授が4月から新たに教育後援会副会長に就任しました。

議事後、教務部長の秋葉教授から「本学の薬学教育について」、進路支援部長の栄田教授から「本学の就職支援について」の講演が行われ、最後に西口副会長より閉会の挨拶があり、総会を終了しました。

来年度も同時期での開催を予定しております。日程が決まり次第、改めて本誌及び案内状にてご案内いたしますので、多数のご参加をお願い申し上げます。

●2016年度教育後援会予算（一般会計）

項目	予算額	使 途
学生生活支援事業	1,559,000	学生教育研究災害傷害保険料補助
	200,000	保険適用外初診料補助（上記保険適用外の初回治療費を補助）
	1,000,000	学生補助金
	150,000	弔慰金
	1,500,000	課外講座受講料補助（学内で開講する課外講座の受講料の一部を補助）
	200,000	一般図書の寄贈
	500,000	卒業祝賀会への協賛
	1,097,600	卒業記念品の贈呈
小 計	6,206,600	
父母対象事業	600,000	会合費・事務費・郵送料
	1,200,000	KPU _{NEWS} 郵送料
小 計	1,800,000	
教育研究支援事業	615,600	分子模型の贈呈（2017年度新入生対象）
	1,862,000	参考書「治療薬マニュアル」の贈呈（2017年度4年次生対象）
	1,450,000	長期実務実習に向けた追加ワクチン接種代
	922,752	白衣授与（2017年度5年次生対象）
小計	4,850,352	
予備費	200,000	
積立金	1,000,000	将来の各種事業に向けた積立金
支出合計	14,056,952	

開催日	10:00-11:30	12:45-14:15	14:30-16:00
2017年 5/21 (日)	薬剤師のための臨床感染症学 ～外来編～	薬剤師の新しい機能 ーポリファーマシー対策と多職種連携ー	病床再編成と地域包括ケアシステムに向けた 患者情報の共有化
	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院 総合内科/感染症科	国立保健医療科学院 疫学統計研究分野	京都大学医学部附属病院 薬剤部
	部長 神谷 亨 先生	統括研究官 今井 博久 先生	教授・薬剤部長 松原 和夫 先生
2017年 6/11 (日)	自己免疫疾患(膠原病)の生物学的製剤治療	小児医療に薬剤師が関われること	薬剤師による緊急対応について ～いざという場合に求められる行動のために～
	京都府立医科大学大学院医学研究科 免疫内科学講座	東京理科大学 薬学部	近畿大学医学部 救急医学講座 救命救急センター ER部
	病院教授 川人 豊 先生	臨床教授 小高 賢一 先生	窪田 愛恵 先生 教授 平出 敦 先生
2017年 7/2 (日)	漢方医はどう考え処方につなげるか	薬と患者をつなぐ医療-糖尿病医療学の世界	薬の費用対効果評価とは？
	明德漢方内科	奈良県立医科大学 糖尿病学講座	東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学寄付講座
	院長 篠原 明德 先生	教授 石井 均 先生	特任准教授 五十嵐 中 先生

*詳細はホームページ (<http://skc.kyoto-phu.ac.jp/>) をご参照ください。

*申込受付期間、プログラム内容等は変更される場合があります。

*本学卒業以外の方もどなたでも受講いただけます。

*申込受付期間終了後でも定員にゆとりがある場合は、お申込を受付できる場合がありますのでお問合せください。

■受付開始：9：00～（注：受付は、当日開始10分前までにおすませください。）

■開催場所：京都薬科大学 躬行館 3階 T31講義室

■定員：360名

■受講料：12,000円（テキスト代含む）

■認定単位：共催 公益財団法人 日本薬剤師研修センター（G01）1日/計3単位

配付条件に基づき配付：1日の講義時間：90分で1コマ/90分×3コマ＝計270分

・条件① G01認定単位は、途中入場や途中退室した場合の認定単位の配付は無し

・条件② G01認定単位は、90分で1単位の配付：1日/計3単位配付

■その他：お支払いされました受講料は、欠席またはキャンセルされた場合でも、返金できませんのでご了承ください。欠席された方には、後日テキストを送付いたします。

■注意事項：ご来学の際は、お車の駐車スペースがございませんので、公共の交通機関でお越しください。

■昼食：各開催日は、本学の食堂をご利用いただけます。有料（現金払いのみ）学内提供価格になります。

*メニュー：カレー、カツカレー、きつねうどん、天ぷらうどん

（注：メニューは、変更になる場合があります）

■申込方法

2017年2月22日（水）～3月23日（木）までの申込受付期間で、(1)又は(2)の方法でお申込みください。

(1) 右記URLインターネット「申込フォーム」より申込み <http://skc.kyoto-phu.ac.jp/>

(2) 電話にてお申込み：TEL 075-595-4677（TEL受付時間 平日のみ 10：00～16：00）

*注：お電話にてお申込の方は、申込票ご記入が必須となるため申込票をFAXさせていただきますので、FAX番号（自宅または勤務先等）をお知らせください。電話での口頭での申込受付はできませんのでご了承ください。

■お問合せ先：京都薬科大学 生涯教育センター

〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5

TEL：075-595-4677（TEL受付時間 平日のみ 10：00～16：00）

FAX：075-595-4683（24時間受付）

E-mail：skc-web@mb.kyoto-phu.ac.jp

■ 相談すること、頼ること

ひとりで悩みを抱え込まずに、信頼できる人に相談してください
相談先のひとつとして学生相談室を加えてください

これらは学生相談室の案内に何度か載せている一文です。ありきたりな常套句との印象を受けるかもしれませんが、学生の皆さんに相談することへの敷居を下げてほしいとの願いを込めたメッセージです。

悩みや問題に直面している学生の中には、自立心に富み、人に頼らず自力で何とかすべきと孤軍奮闘するタイプの方々がおられます。自力で物事に立ち向かい頑張ろうとする気概は尊いものだと思うのですが、自力でのりきることを優先するあまりに頼りたいのに頼れなかったり、孤立してしまったりとマイナスに作用してしまうことがあるようです。また、この程度のことで相談することは恥ずかしいこと、怒られるかもしれない、相手に申し訳ないなどといった考えから、悩みを押し隠してしまうケースもあるようです。そうなってしまうと、時として問題解決から遠ざかってしまうだけでなく、苦境を長引かせて自らをさらに追い込んでしまうことにもなりかねません。

自分にはどうすべきか答え（解決に何が必要かの正解）はわかっている。だから、相談しても意味がない、やるしかない、頑張るしかない。うまくいかないのは、頑張りが足りないだけ、我慢が足りないだけだ。こんな悩みはとるにたりない小さなことで相談に値しない。

そんな風に考えてしまっただけですか？頭に浮かぶ言葉、口をついて出る言葉の語尾に“ない”や“しかない”ばかりが目立つときは、自分のその考えが負担になりすぎてはいないか、孤立してはいないか注意が必要かもしれません。

周囲に頼ること、相談することに対して、否定的なイメージをもっている方もいるかもしれませんが、それらは改善や解決に向けた主体的な対処行動のひとつです。相談することを通して、否定されずに話を聞いてもらえることに安心できたり、抑え込

んでいた気持ちを表現できたりします。また、相談することによって気持ちや問題の整理ができたり、自分や状況を客観的にとらえたりすることができるようにもなります。今、困り事や苦しみを抱え込んでいる方は、周囲の信頼できる人に相談してみてもいかがでしょうか。身近な人、関係のある人には知られたくない方、話しづらい方は学生相談室などのカウンセラーを利用する方法もあります。

相談することに慣れていない方だけでなく、以前相談してみたけれど思うように相談できなかったという方もおられるかもしれませんね。実際に相談してみたけれど、自分の期待・希望（＝ニーズ）とは異なる反応が相手からかえってきて辛い思いをした等の体験談をお聴きする事があります。そこで、折角相談したのにという悲しい結果にならないよう、相談する時のコツをひとつお伝えしておきたいと思えます。それは、相談するときできるだけ相手に自分のニーズを伝えることです。例えば、今はただ自分の話を受け容れて聞いてほしい、助言が欲しい、第三者視点からの意見が欲しいのだけれど話を聞いてくれる？等といったように、求めていることを伝えてみましょう。

そういわれても自分のニーズが実のところ何なのかははっきりしなかったり、自分の中に相反する気持ちがあったりするようなときがあるかもしれませんね。そのような場合は、先ず自分はどのように、何を相談したいのか、何を求めているのかを自身に問いかけ整理するところから始めてみるのもいいかもしれません。考えてみたけれど整理がつかないようなとき、自分の中でまとまらないものを相談することは難しいと思いますが、そんなときもひとりで悩みを抱え込みすぎず、例えば整理がつかないことを相談してみるのも手です。相談先に迷うようなときは、学生相談室へお越しください。

（臨床心理士 建部 有里）

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく、学生相談室をご利用ください。悩みを相談する相手を見つけたり、解決や改善のために課題や問題に取り組むゆとりを見つけたりすることは思いのほか難しいものかもしれません。そんな時は学生相談室をご活用ください。

●相談

学生相談室における相談は、臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。皆さんが気持ちや考えを整理したり、問題解決の糸口を探るためのお手伝いをいたします。

●サロンの開室

学生相談室内にサロンがあり、開室時に開放しています。疲れたとき、ホッとしたいときに、学内での居場所のひとつとしてご利用ください。飲食も可能です。

●相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は、学生相談室に直接来室してお申込みいただくか、電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。

- ・開室（受付）時間：月～金 8：45～17：15
- ・電話：075 - 595 - 4672
- ・メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

※1 予約の際は、氏名、学籍番号、相談を希望する日時（第1・第2希望）をお知らせください。

※2 メールは予約受付のみで、相談対応は行っておりませんので、ご了承ください。

私の薦める、私の一冊 Column

臨床腫瘍学分野 准教授 中田 晋

ヘルマン・ヘッセ著/高橋健二訳『知と愛』
新潮文庫(1959)

原題は「ナルチスとゴルトムント」である。修道院の正統な神学者で迷うことのない知の人ナルチスと、芸術と愛の世界に生きた迷える人ゴルトムントの出会いに物語は始まる。神童と呼ばれながら自分が修道院の中の世界だけでは生きられないことを悟った美少年ゴルトムントは、人生の真実を求めて放浪の旅にでる。自由奔放な愛の遍歴を重ね、時には危ない橋も渡りながら、やがて自らの天命を彫刻家として芸術に奉仕することに見いだす。時が経ち、年老いて芸術家として半ば燃え尽き、愛も破綻して行き詰まったゴルトムントは、知の世界と愛の世界を融合させた聖母マリア像の制作に救いを求めるように、ナルチスが院長となった修道院に戻ってくる。対立し引き裂かれた二人の世界が、最後には融和へと向かう人生の物語が、ノーベル賞作家のこのうえなく美しい言葉で描かれる。

若い時の悩みは、この相容れない両極性に集約されるのではないだろうか。薬学の専門家をめざして勉学に励まなくてはならない苦しい現実に（試験の度に）直面させられる一方で、今日もテレビをつければ美男美女達がゲラゲラと楽しく可笑しく生きる世界が映し出される。私の場合、20代前半での将来の夢は、作家かミュージシャン、もしくは映画監督、でなければ写真家、それもだめなら旅人になる、というものであった。自分で医師になると決めたのだからちゃんと医学を学べという正し過ぎる使命は、（試

験前になると)私を押し潰そうとする巨大な岩のような気がした。これぞ現実と精神の断裂である。

その後、いろいろ頑張って、また沢山の人の力を借りて、どうにか社会で生きていくうちに、この二極化というような極端な区別をすることから脱却し、自分なりのバランスをみつけるようになる。人はその過程を、大人になる、という。

しかし、一つ重要なことは、ヘッセ自身は生涯をかけてこのような作品を書いている点である。天才は一生、子供のように生きていけるのだ。一步も引かずに。まずこのことに勇気づけられる。逆にいうと、ヘッセと聞いて「子供ねえ」と片付ける人は、所詮は幸せな凡人に過ぎないのかもしれないのだ。

さらに重要なことは、ゴルトムントが最後は修道院に帰ってくることである。愛と芸術の美しい世界も突き詰めてしまうと、だんだん苦しいことになってきて、やがて将棋が詰むように追い込まれる。最後に救われるのは原点に戻ることであり、二極化ではなく融合である。意外にも、知の世界に救われるのである。ここに我々に代わって苦しみ続けたヘッセが残してくれたヒントがある気がしている。

※本書は入荷次第、図書館内の本誌推薦書コーナーに展示いたします。



■ Royal Society of Chemistry Tokyo International Conference 2016においてRSC Best Presentation, "Analyst" Poster Prizeを受賞

2016年9月8・9日に千葉幕張メッセで開催されたRoyal Society of Chemistry Tokyo International Conference 2016 (英国王立化学会東京国際コンファレンス2016)において、薬品分析学分野の小西敦子助手がRSC Best Presentation, "Analyst" Poster Prizeを受賞しました。

演題: Development of potentiometric sensor based on molecularly imprinted polymer using histamine as a template
 演者: Atsuko Konishi, Shoko Akatani, Rie Takemoto, Risa Fujita, Shigehiko Takegami, Tatsuya Kitade



■ 日本薬学会近畿支部総会・大会において優秀ポスター賞を受賞

2016年10月15日に大阪薬科大学で開催された「第66回日本薬学会近畿支部総会・大会」において、本学の学生3名が優秀ポスター賞を受賞しました。

受賞者: 病態生化学分野 6年次生 清水 涼平

演題: ダウン症モデルマウスの脳層構造の解析

演者: 清水 涼平¹、石原 慶一¹、河下 映里¹、左合 治彦²、山川 和弘³、秋葉 聡¹

(1: 京都薬科大学、2: 国立成育医療研究センター、3: 理化学研究所 脳科学総合研究センター)

受賞者: 細胞生物学分野 4年次生 橋本 彩

演題: カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス遺伝子ORF36 (ウイルス性キナーゼ) の性状解析

演者: 橋本 彩、渡部 匡史、藤室 雅弘

受賞者: 細胞生物学分野 5年次生 伊藤 早織

演題: 核酸誘導体を骨格とした抗 Dengue ウイルス化合物の探索

演者: 伊藤 早織¹、藤澤 紘希¹、渡部 匡史¹、日紫喜 隆行²、加藤 文博³、岡野 裕貴⁴、田良島 典子⁴、南川 典昭⁴、藤室 雅弘¹

(1: 京都薬科大学、2: 東京都医学総合研究所、3: 国立感染症研究所、4: 徳島大学大学院医歯薬学研究部)

News クラブだより

陸上部

2016年度 大会活動実績

・第16回 全日本薬学生対抗陸上競技大会 女子 100m 1位・男子 4×100mR 2位/砲丸投げ 2位

・第70回 関西薬学生対校陸上競技大会

女子 100m 2位/200m 2位/800m 1位・2位・3位/4×100mR 1位/女子総合の部 2位

男子 100m 3位/200m 3位/800m 2位・3位/1500m 3位/5000m 1位/4×100mR 2位/三段跳び 1位

男子総合の部 3位/男女総合の部 2位

剣道部

剣道部の今年度の試合結果について報告します。

関西薬学生剣道大会: 男子団体 第3位(京薬A)・新人戦 優勝

全国薬学生剣道大会: 男子団体 準優勝(京薬A)・第3位(京薬B)

さて、今年度は本校主管にて全国薬学生剣道大会が開催されました。結果は男子団体Aチームが準優勝と好成績を収めることができました。決勝戦では惜しくも敗退しましたが、互いに一步も譲らない試合展開で代表戦までもつれ込む大変良い試合でした。また、来年度は本校主管にて関西薬学生剣道大会が開催されます。今年度の悔しさを糧に、必ずや優勝できるよう、日々の稽古に取り組んで参ります。

マンドリン部

こんにちは、マンドリン部です。マンドリン部はマンドリン、マンドラ、セロ、ギター、コントラバスの5種の楽器でオーケストラを組み演奏しています。大学から楽器を始めた部員がほとんどですが、部員同士で協力して練習し、また技術顧問の先生の指導を受けるなど意欲的に取り組んでいます。現在は4月30日(日)に開催される全日本マンドリン連盟・京都ブロックの合同演奏会や、卒業式の祝奏にむけての練習を行っています。最近では依頼演奏により、独奏やアンサンブルを披露する機会が増え、活動の幅も広がっています。部活中は真剣に演奏し、また日頃から学年の垣根を越えて仲が良いので、和気あいあいとした雰囲気の中活動しています。



水中でぶつぶつ

- 第1話 -

～ 泣きを入れて許された ～

KPU_{NEWS}編集委員会からの依頼で、「私の薦める、私の1冊」を昨年2回。引き受けてから締め切り間近に（過ぎてからやろ！という雑音もあり）、ハッとする成長のない牛の反芻行動。本はいっぱいあるんです。時を経ても色あせない著作が「文庫」となり、「新書」に、文庫や新書は名著の証！そんな時代は忘却の彼方。いまやどない！（得意の大阪弁）Googleさんを駆使して、数えてみますとなんと30を超えそう、いや超えているかも。新書に至っては10人ぐらいの手を使わないと数えることなど。そのうえ、本屋さんには床が抜けへんのが不思議なくらい単行本。そうなんです、本は星の数ほど出版されているんです。そんななかから1冊の本を推薦せよとは酷の極み、そのうえに読む本も偏っている。他人様に推薦できるような本に出会うなんてえ、砂漠の砂金粒。ということで、委員会のみなさまに泣きを入れたところ、「水中でぶつぶつ」というタイトルで可。で、ホッとし、「むじな」という下らんものを書くつもりが、KPU_{NEWS}の新年号とな！あかん。で、方針変更の第1回。

「雨だから迎えに来てって言ったのに傘も持たず裸足で来やがって」

盛田 志保子

短歌を作ろうなんてえ、高尚なことは夢のまた夢。暇つぶしに本屋を巡回中に、本日発売の売り文句に引っかかった穂村弘著「はじめての短歌」（河出文庫）、それに収録されていた歌。本歌をもとに穂村さんは「死ぬ日に覚えている思い出が一個でも多い人生が、より良い人生なんじゃないの。そのとき一個でも思い出せることがない人生は、ダメなんじゃないの」という言を展開しています。歌と言がつながるのでしょうか？記憶に残る、並ではないおもしろいことが多い方がええやんと言っているのではないのでしょうか。さて、今年も「死ぬ日まで覚えている思い出」探しと行きますか。

学長 後藤 直正



NEWS 京薬会だより

<ホームカミングデーの開催>

今年度も母校の大学祭「京薬祭」にあわせて11月6日（日）に第7回ホームカミングデーを開催しました。

今回は、歓迎セレモニーにおいてはまず西野京薬会会長、武田京都薬科大学理事長の挨拶に引き続き4月に就任された後藤学長より就任挨拶ならびに抱負、さらには大学の種々の取り組み、ならびに国家試験の結果、進路状況の紹介など大学の近況について紹介があり、そして影久学生自治会会長の歓迎挨拶がありました。

講演会では近畿大学東洋医学研究所講師（昭和58年本学卒）日置智津子先生により「現代東洋医学（漢方）の理論・期待できる薬剤師による実働と展開」と題しての講演があり、また、今年は国際交流推進室にご協力をいただき米国ボストンMCPHS大学（Massachusetts College of Pharmacy and Health Sciences）のサマープログラムに参加した学部学生による留学報告会もあり、参加した卒業生の皆さんから大きな反響がありました。

会場を移して行われた歓迎パーティーでは、受付時に参加者にお配りしたチケットを使って学生の出張販売を購入したり、また、模擬店に繰り出したりと、卒業生同志また、卒業生と在学生の交歓が随所

に見られ、非常に和やかな会となりました。なお、お配りしたチケットは各クラブ、サークルに現金として還元し、活動の援助を行っております。

今回もたくさんの卒業生にご参加いただき、盛会となりました。また、この会にあわせて滋賀支部総会も開催され、ミニ同窓会を開催したり、同期の仲間誘い合わせて参加し、歓談したり、といった光景もあり、このような形でもこの会を利用していただけたらと思います。次回もまた新しい企画を用意し、11月初旬の京薬祭に合わせて開催しますので、お誘いあわせの上母校にお越しください。卒業生の皆さんの多数の参加をお待ちしています。

<京薬祭への協賛ならびに優秀クラブ表彰>

11月5・6日の両日、京薬会協賛の「京薬祭」が学生、卒業生はもちろんのこと、子供たちも楽しめる企画など盛りだくさんの企画で開催され、新装なった創立130周年記念館における催し、中庭での模擬店と夜遅くまでにぎわいました。

京薬祭の2日目には、恒例の京薬会によるクラブ表彰が行われ、今回は優秀クラブとして、剣道部、ヨット部、そしてマンドリン部が選ばれ、副賞を添えて表彰しました。

■ 2016年度動物慰霊祭

10月26日(水)に、本校地の動物慰霊碑前において、2016年度動物慰霊祭を執り行いました。

当日は、当麻寺の増田宗雄住職をお迎えし、読経をいただきました。

武田理事長、後藤学長、山本バイオサイエンス研究センター長をはじめ職員、多くの学生が次々と焼香をし、日頃教育・研究に貢献をした多くの動物達に感謝と慰霊の念をこめて冥福を祈りました。

■ 人事異動

採用

事務局施設課

主事 柴田 憲利
(2016.12.1付)

再任

共同利用機器センター

助教 服部 恭尚
(任期：2016.10.1～2021.9.30)

配置換

事務局入試課

係長 樋口 文子
(前 事務局施設課)

事務局庶務課

係長 阪 幸子
(前 事務局入試課)

事務局進路支援課

主事 谷垣 朱美
(前 事務局教務課)

事務局施設課

事務員 山川 晋平
(前 事務局進路支援課)

事務局教務課

事務員 小嶋 裕介
(前 事務局庶務課)

(以上2016.10.1付)

退職

創薬科学系薬化学分野

助教 星谷 尚亨
(2016.10.31付)

京都薬科大学奨学寄附金芳名録

Report

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附(10万円以上)を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2016年9月～2016年11月にご寄附をお寄せいただいた方々

< 卒業生・同期会等 (卒業年次順) >

斎藤 本子(昭26)	竹中 正則(昭38)	竹中紀久子(昭43)	内藤 栄美(昭45)	高美 美鶴(昭56)
永濱 淳子(昭31)	横田 好子(昭39)	都築 澄子(昭43)	野村 誠子(昭46)	室賀斐ろこ(昭59)
森下 道子(昭32)	太田 俊作(昭40)	富永 護(昭43)	山本 泰人(昭46)	福山由希子(昭62)
渋谷 禎彦(昭35)	辻 明良(昭41)	古本 靖弘(昭43)	櫻木 健司(昭49)	串田 ゆか(昭63)
川原子保子(昭37)	森 道子(昭41)	古本 良子(昭43)	吉井 泰子(昭50)	山下 和紀(平08)
福田英美子(昭37)	久米 和子(昭43)	吉田 高子(昭43)	長谷川伸江(昭51)	尾崎 朋久(平11)
本岡美智子(昭37)	弘野 淑子(昭43)	高越 清昭(昭44)	森 一二美(昭52)	S49年卒業生有志一同

< 京薬四二会卒業50周年記念募金 (昭和42年卒業生) (五十音順) >

赤神 禮子	谷口 睦子	松江 満之	吉川 卓甫
上田 信子	根岸 卷子	松高 壽子	吉田 進彦
金澤 治男	萩野 静代	丸茂 晃	
黒田 和夫	長谷川孝人	三木 泰子	
武田 禮二	英 健一	吉川 征紀	

< 法人役員・評議員・職員等 (五十音順) >

岡部 進(名誉教授) 久米 光(評議員) 高美 時郎(評議員) 森 新(評議員) 森田 和子(理事)

(2016年11月30日現在)



KPU NEWS No. 188

2017年1月発行/編集: KPU NEWS編集委員会

発行: 京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691(企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。